

英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
 廃止措置研究・人材育成等強化プログラム
 中間評価総合所見

評価の概略			
研究開発課題名：廃止措置のための格納容器・建屋等信頼性維持と廃棄物処理・処分に関する基盤研究および中核人材育成プログラム 事業代表者(研究機関名)：原 信義(東北大学) 再委託先研究責任者(研究機関名)：小沢 喜仁(福島大学) 再委託先研究責任者(研究機関名)：實川 資朗(福島工業高等専門学校) 研究期間：平成26年度～平成30年度(5年計画)			
項目	要約		
1. 事業の概要	東北大学の伝統的な強みである材料分野のポテンシャルを活用すべく広範な分野が連携した全学横断組織を形成し、さらに福島大学及び福島高専の専門家の協力を得て基盤研究を加速する。また、専用の学生教育カリキュラムを整備して、安全な廃止措置をリードできる中核人材の育成を図る。このプロジェクトを実施する過程で、長期にわたる研究及び人材育成体制を構築することをプログラム全体の目標とする。廃止措置の現場のニーズを踏まえた優先研究課題として、『(1)格納容器・建屋等の健全性確保のための基礎・基盤研究』と『(2)燃料デブリの処理と放射性廃棄物の処分に関する基礎・基盤研究』の2つの課題に取り組む。各研究課題には具体的目標を設けて現場で役立つ成果の創出を目指す。人材育成面では、「原子炉廃止措置工学プログラム」を設け、基盤研究への学生の主体的な参画を図ると共に、専用カリキュラムを整備して、状況が複雑に変化する可能性がある廃止措置工程において異分野専門家との連携を図り、的確かつ重層的な対応を取ることができると期待される。		
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; width: 50px;">A</td> <td> 材料に関する評価研究ではニーズを意識した特色ある取り組みを進めており、腐食等の有用なデータが蓄積されつつあり、今後の成果が見込まれる。実際の状況を想定した燃料デブリからの核分裂生成物およびマイナーアクチノイドの溶出の評価やセメント系材料によるウラン核種の閉じ込め効果などの基礎研究は、廃止措置に貢献するものとして期待される。人材育成については組織的な廃止措置工学の体系化と共に他分野や他大学との連携を築くプログラムを実施している点について高く評価する。 </td> </tr> </table> <p>S) 期待以上の成果が見込め継続するべきである A) 予定通りの成果が見込め継続するべきである。 B) ほぼ期待通りの成果が見込め継続するべきであるが、計画の一部見直しが必要である。 C) 成果が見込めない部分があり、計画を見直し継続するべきである。 D) 成果がほとんど見込めず中止すべきである。</p>	A	材料に関する評価研究ではニーズを意識した特色ある取り組みを進めており、腐食等の有用なデータが蓄積されつつあり、今後の成果が見込まれる。実際の状況を想定した燃料デブリからの核分裂生成物およびマイナーアクチノイドの溶出の評価やセメント系材料によるウラン核種の閉じ込め効果などの基礎研究は、廃止措置に貢献するものとして期待される。人材育成については組織的な廃止措置工学の体系化と共に他分野や他大学との連携を築くプログラムを実施している点について高く評価する。
A	材料に関する評価研究ではニーズを意識した特色ある取り組みを進めており、腐食等の有用なデータが蓄積されつつあり、今後の成果が見込まれる。実際の状況を想定した燃料デブリからの核分裂生成物およびマイナーアクチノイドの溶出の評価やセメント系材料によるウラン核種の閉じ込め効果などの基礎研究は、廃止措置に貢献するものとして期待される。人材育成については組織的な廃止措置工学の体系化と共に他分野や他大学との連携を築くプログラムを実施している点について高く評価する。		